

顔認識技術とは

- ▶ 「目や鼻、口などの位置や大きさを基に本人かどうかを確認する認証方式」である。
- ▶ 精度は企業によって異なるが、2018年に世界第1位の性能評価を獲得した企業のサービスは、1200万人の静止画を使った顔認証でエラー率0.5%だった。
- ▶ 主な問題点は
 - ①高精度なほど高価
 - ②条件が整っていないと精度が落ちる
 - ③顔データが流出した際のリスクが大きい
- ▶ 特に②については、女性と肌の色が濃い人の認識で誤判定が多いと複数の調査結果が示しており、公平性が疑問視されている。

顔認識技術をめぐる事件

- ▶ 2020年6月、IBM、Amazon、Microsoftなどが警察への顔認識技術の提供を停止することを発表した。これは、「人種、性別などによる誤判定も大きい顔認識AIが、警察によるデモ鎮圧などの監視システムとして使われることへの反発」であるとされている。
- ▶ 警察による黒人に対する過重な取り締まりは米国社会で以前から問題視されていたが、黒人や女性に誤認識が起きやすい顔認識AIを警察が用いることでさらに状況が悪化するのではないかと指摘されていた。
- ▶ 一方で、顔認識技術は新型コロナウイルスの感染追跡でも利用が検討されており、これらの技術提供の停止に対して批判も起こっている。

今後の課題

- ▶ AIのバイアスや監視への懸念は以前から指摘されてきたが、人種差別を象徴する問題点として改めてクローズアップされている。
- ▶ Amazonは警察への顔認識技術の提供を1年間停止すると発表した。これは「連邦議会が適切なルールを実施するのに要するであろう時間」だとしている。うまく利用できれば大きく社会に貢献できる一方、差別を助長する恐れもある顔認識技術だからこそ、適切な法整備をしたうえでの利用が求められている。

<参考文献>

- https://www.newton-consulting.co.jp/itilnavi/column/face_authentication.html
- https://kaztaira.wordpress.com/2020/06/10/why_does_ibm_abandon_facial_recognition_technology/
- <https://japan.cnet.com/article/35134952/2/>